成長点局所加温とCO_2施用を組み合わせたミニトマト栽培技術

ZEN-NOH

○「成長点局所加温技術」とCO_2施用を組み合わせることで、高収益なミニトマト栽培が期待されます。

背景

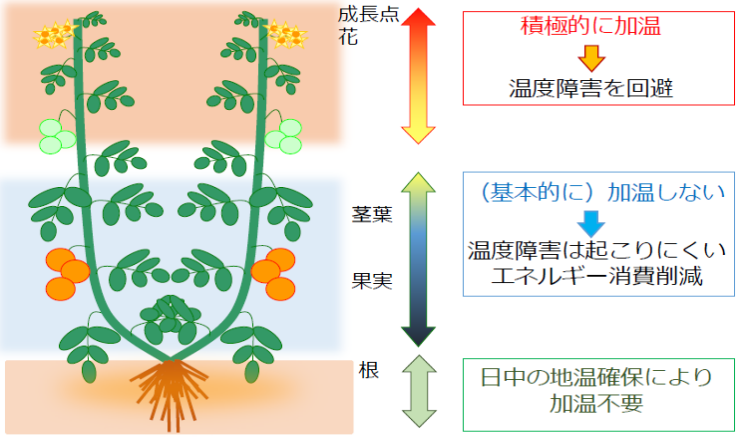
○ミニトマトの促成作型では、冬季に栽培を行うため暖房が必須。
○暖房費は生産費の中でも特に不安定なため、暖房費を削減し、生産費全体に占める暖房費の割合を下げることが経営の安定化に重要。

適用範囲

中小規模施設を使用し、ミニトマトの促成作型に取り組む産地・生産者

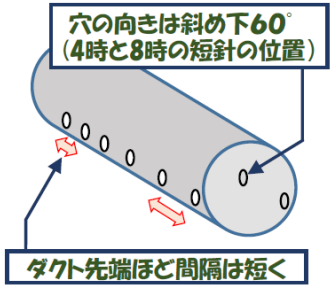
成長点局所加温の特徴

低温に弱い成長点や花を局所的に加温し、茎葉への加温を抑えることで、より少ないエネルギーで効率の良い加温を行うことができる。



実施方法

○CO_2施用機と送風機が連動して動作するように設定。また、CO_2施用機の吹き出し口と送風機（温風暖房機）をポリダクトで接続。
○梁にマイカー線等をU字型に設置し、そこに各畝に配置された温風ダクトを通してダクトを固定。
○温風ダクトを固定する高さは、ミニトマトの成長点位置～やや上辺りが適切。
○温風ダクトには斜め下60°に直径6mmの穴を暖房機付近で1m間隔、ダクト先端部で12.5cm程度の間隔で開ける。



詳細情報

農研機構「成長点局所加温とCO2施用を組み合わせたミニトマト栽培技術【2019年度改訂版】」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133091.html

資料作成協力：農研機構